



福島市

高齢者の デジタル活用発表会

開催日時

令和5年3月12日(日)
13:30~15:00

会場

ホテル福島グリーンパレス 瑞光の間

次第

1 開 会 <13:30>

2 福島市長あいさつ

3 福島市のデジタル化の取組について

4 パネルディスカッション（コーディネーター：福島市長）

(1)地域におけるデジタル活用の事例発表

○ネットでの集会所予約について(野田町町会連絡協議会)

○LINEを活用した町内会活動について(松川石合町内会)

○ウェブサイトを活用した町内会活動について(渡利希望ヶ丘町会)

○地域デジタルクラブの活動について(吉井田ICTサポートクラブ)

○シルバー人材センターICT班の活動について(シルバー人材センター)

○市スマホ講座に講師等として参加した感想について

(ドコモショップ南福島店のスタッフ、福島大学の学生)

(2)意見交換

テーマ「デジタルで便利で豊かな新ステージを目指して」

5 閉 会 <15:00>

福島市のデジタル化の取組について

デジタル推進協議会とデジタル都市宣言

ふくしまデジタル推進協議会 (2022.7.11設立)

- 行政、経済、教育、医療福祉、地域、高齢者、デジタル関係企業など各分野の代表参加(総勢25名)
- 市全体のデジタル化への方向性共有
- 全市的デジタル化と先導的プロジェクトの推進
- 各分野の推進者選任。トップのバックアップのもと各分野の取組推進



デジタルで便利で豊かな新ステージへ

～ 福島市デジタル都市宣言 ～

(2022.11.30)

3

デジタル化は、コロナ禍を機に、新しい生活様式として急速に進展し、変革・成長の原動力としてその加速が強く求められています。

デジタルの活用は、一人ひとりのニーズにあった多様な選択を可能にするとともに、人手不足の解消、商品・サービスの開発・高度化、経営・財政の効率化に寄与します。

福島市は、市民共創で、高齢者にもやさしいデジタル化を推進し、市民生活と地域活動の全体にわたってデジタル化を浸透させていきます。そして、人とデジタルの融合のもとで、市民生活をより便利で快適に向上させるとともに、産業振興など地域の活性化を図り、持続的に発展する都市を形成していきます。

福島市は、次の3つの戦略に基づき、「デジタルで便利で豊かな新ステージ」を目指すことをここに宣言します。

【デジタル都市に向けた3つの戦略】

- 1 デジタルを活用した市民サービスの向上と行政の高度化・効率化
- 2 デジタルを活用した市民生活を豊かにするまちづくりと産業振興
- 3 市民共創で高齢者にもやさしいデジタル化

デジタル都市に向けた3つの戦略

目指す姿

デジタルで 便利で豊かな 新ステージ

○市民共創で、高齢者にもやさしいデジタル化を推進し、市民生活と地域活動の全体にわたってデジタル化を浸透させていきます。

○人とデジタルの融合のもとで、市民生活をより便利で快適に向上させるとともに、産業振興など地域の活性化を図り、持続的に発展する都市を形成していきます。

3つの戦略

1
デジタルを活用した
市民サービスの向上
と行政の高度化・
効率化

2
デジタルを活用した
市民生活を豊かにする
まちづくりと産業振興

3
市民共創で高齢者にも
やさしいデジタル化

推進施策（14）

- (1) デジタルファーストのサービス向上
- (2) マイナンバーカードの普及促進と利活用
- (3) デジタル活用によるコミュニケーションの強化
- (4) 行政の高度化・効率化
- (5) 情報セキュリティの確保
- (6) 新たなコミュニティと共生社会の形成
- (7) 医療のデジタル化と健康づくり
- (8) 子育て支援、教育のデジタル化
- (9) デジタルを活用した賑わいの創出
- (10) デジタルを活用した農業や商業の振興
- (11) デジタル関連事業者の集積とこれを活かした産業活動の活性化
- (12) 市民総ぐるみのデジタル化
- (13) デジタル人材の育成・確保
- (14) 市民相互のサポート・学びあい

福島市内60歳以上のスマートフォン普及状況

○60歳以上のスマートフォン普及状況

	福島市			全国		
	60代	70代	80以上	60代	70代	80以上
令和元年度	54.9%	31.2%	-	64.7%	33.8%	11.0%
令和2年度	-	-	-	67.4%	38.3%	11.0%
令和3年度	-	-	-	79.3%	53.1%	19.2%
令和4年度	83.1%	61.4%	26.0%	-	-	-

<福島市> 令和元年度 「福島市の情報化に関するアンケート」より
 令和4年度 「福島市のデジタル化に関するアンケート」より
 <全国> 令和元年度～3年度「総務省実施 通信利用動向調査」より

○80歳以上の層はスマートフォンの所有率も低く、自由記載の意見においてもデジタル化に対して消極的意見が多く見られた。一方で、70代まではスマートフォンの所有率も高く、スマートフォン教室の開催やデジタルに関する相談窓口の設置を希望するなど、活用に対する意欲が高い。

市民相互のサポート・学び合い

1 スマートフォン利活用支援講座

- デジタル活用に不慣れな高齢者等に対し、携帯会社のスタッフが講師、**学生等がサポーター**となり、スマートフォンの便利さや楽しさを体験できる講座を実施
- 開催場所:各学習センター
- 開催時期:9月下旬～2月下旬
- 開催回数:**130回**
- 延べ受講者数:**988人**

サポート体制図

《講師》

《 サポーター 》

携帯会社
スタッフ



大学生等

シニアICT
サポーター
(昨年度受講生)

1人

5人

※受講生2人に対して、サポーター1人が支援



▲講座の様子

2 シニアICTサポーター育成講座

○地域の中で支援し合える仕組みとして、高齢者が困ったときに近くで相談できる「**シニアICTサポーター**」を育成する講座を開催

○開催場所:学習センター等

○開催時期:1月下旬～2月下旬

○開催回数:7回(2日間コース)

○延べ受講者数:65人

※現在、令和3年度に本講座を受講した5名の方が市主催のスマホ講座のサポーターとして活動(有償ボランティア)



▲シニアICTサポーター活動の様子

市民相互のサポート・学び合い

3 電子町内会（ICTを活用した町内活動支援）

○市からの回覧物等はメールで送付。
また、町内会内部もメールやLINE等
を活用して、スピーディーに情報発信。

○参加町内会：**31町会**
※R3年度：25町会
R2年度：4町会

電子町内会ウェブサイトの構築（2022.11.30）

町内会の紹介やお知らせ、活動等を掲載

▼ウェブサイトイメージ図



市民相互のサポート・学び合い

4 デジタルサポートデスク

2022.12月～設置

○デジタル相談窓口「ふくしまデジタルサポートデスク」設置
デジタルに関することならどんなことでも気軽に相談可能。

開設場所	開設曜日	定員
市役所1階	・毎週月曜日 (2/27～拡充) ・毎週水曜日	1日5名 (予約優先制)
アオウゼ	・毎週金曜日	



▲相談の様子

○延べ利用者数：101名

※3/8現在

○年代

60代:39人(39%)
70代:48人(47%)
80代:14人(14%)

○性別

女性:67人(66%)
男性:34人(34%)

○主な相談内容

- ・スマートフォンの基本操作
- ・LINEの使い方(友だち登録方法等)
- ・メールの返信や削除の仕方

行政の積極的デジタル化推進

(1) 公共施設予約システム（2021年12月より）【東北初】

- スポーツ施設等36施設にキャッシュレス決済可能なシステムを導入
- オンライン予約利用率（2022.11月時点：45.7%）
- キャッシュレス決済利用率（2022.11月時点：37.5%）

(2) 電子図書館の開設（2023.2.1～）利用実績 約2,400冊（2月末時点）

電子図書館の特徴 ～いつでも どこでも もっと便利に！～

年中無休

いつでも どこでも
24時間 利用できます！

見やすさ◎

文字の大きさ変更可能
読み上げてくれるものアリ

来館不要

期限が来たら、自動返却
返し忘れなし

電子書籍コンテンツ数

約1万1千タイトル（青空文庫含む）

- ・小説（大人や中高生が楽しめるもの） 1,200冊
- ・児童書（絵本や読みものなど） 500冊
- ・その他（ビジネス書、育児書、語学などの実用書や
趣味・教養など） 2,300冊
- ・青空文庫（名作文学など） 6,800冊



行政の積極的デジタル化推進

(3) 12誘導心電図伝送システムによる救命率向上（2022）

○12誘導心電図とは
心臓に流れる電流を12方向から詳細に記録できる心電図。

○効果
救急隊が急性心筋梗塞を疑うと、
12誘導心電図装置でデータを伝送し、
病院到着前に医師が診断することで
治療時間の短縮を図る。
心筋梗塞の場合、治療までの時間を
10分短縮できれば、死亡リスクが8%
低減されると言われる。



○救急医療の強化

救急車全10台で運用中。3月9日までに135件の送信事例があり、そのうち14件が急性心筋梗塞と診断。14件の中には、50代男性が4名含まれており、その患者には緊急手術等の治療がただちに行われ、良好な経過をたどるなど、高い効果を確認。

(1) ポストコロナ対応デジタル化等支援（2023）

○デジタル化推進枠

事業者が行うポストコロナに向けたデジタル化対応経費の一部を補助

○新規創業枠

創業1年未満の事業者等が行うポストコロナに向けたデジタル化対応経費等の一部を補助

(2) 電動アシスト付きシェアサイクルの導入

○登録者数：約6,400人

(3) 学校教育のデジタル化

○一人一台端末を活用した教育の積極的推進

○家庭でのWi-Fi環境整備、オンライン授業の日
（各学校月1回、全学校年1回）

⇒ コロナ感染による学級閉鎖等でオンライン授業実施

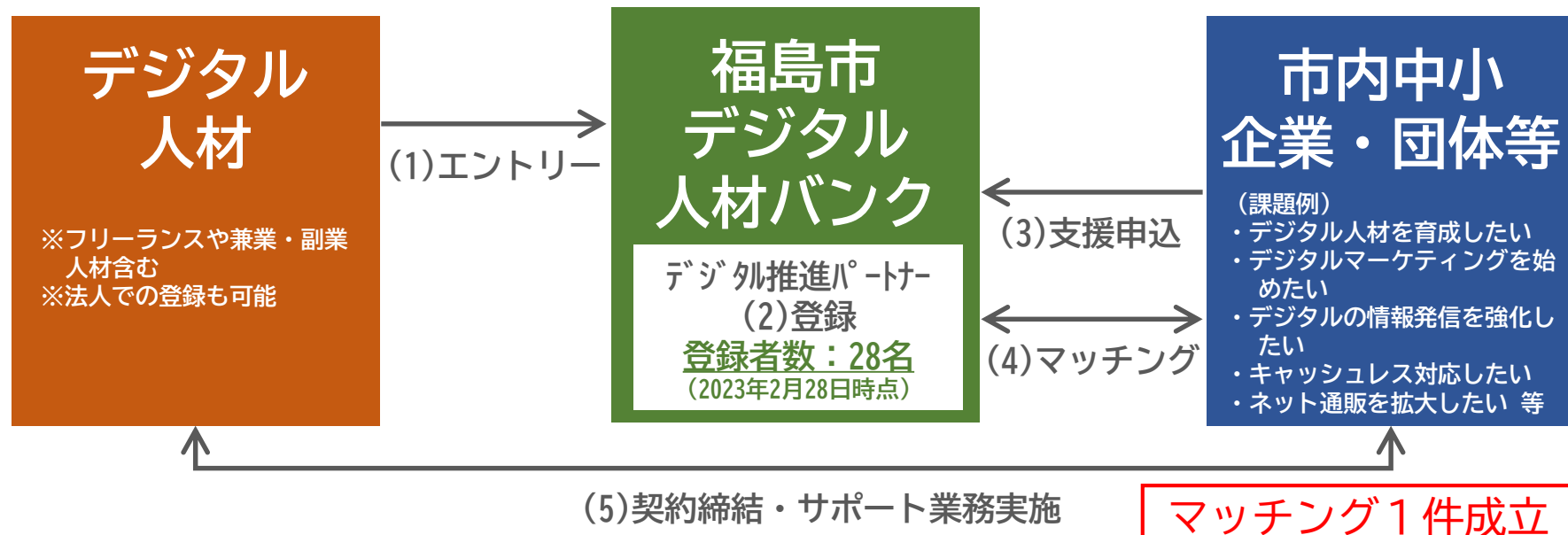
○2022年は英語等のデジタル教科書を使用するなど新たな学びを取り入れ、情報活用能力を育成

支援内容	
対象経費	委託料・工事費等
補助率	3分の2 (上限30万円)



- 市内中小企業や団体が抱える課題をデジタルの力で解決する「福島市デジタル人材バンク」を設置しています。

(2023年2月28日時点 市内個人:14名、市内法人:6社、市外個人:5名、市外法人:3社)



デジタル人材の登録

- (1) 免許資格や自己PR・企業PR等を入力してエントリーします。
- (2) デジタル人材を「福島市デジタル推進パートナー」として登録します。

デジタル人材と中小企業等のマッチング

- (3) 支援を受ける目的・業務概要・期間の情報とともに支援を申し込みます。
- (4) 中小企業・団体等のニーズに合ったデジタル人材を企業へ橋渡しします。

デジタル人材と中小企業等の契約

- (5) デジタル人材と市内中小企業等でサポート契約を締結します。

簡単便利な行政サービス

コンビニ交付サービス

マイナンバーカードがあれば、住民票などの各種証明書が、いつでも・どこでも・かんたんに受け取りが可能です。
しかも、窓口より、100円安く取得できます。



◎いつでも

- ・ 毎日 午前6時30分～午後11時まで、利用可
- ・ 市役所が開いていない早朝、夜間、土日祝日も利用可

◎どこでも

- ・ 全国のコンビニ等（約56,000店舗）で取得可

◎かんたんに

- ・ 機械の画面表示に沿って操作し、どなたでもすぐに、取得可

簡単便利な行政サービス



マイナポータル

ぴったりサービス

これまで窓口に来庁し、紙などで提出していた申請手続きが、[マイナンバーカード](#)を使って、スマートフォン等から申請することが可能です。

◎ 179 手続きが申請可能 ※全国トップクラス (R5.2月末現在)

国民年金

介護保険

高齢者医療

犬の登録等

被災者支援

ごみ・環境

戸籍・住民票

国民健康保険

市道

公営住宅

文化・生涯学習

地域振興

税

公共施設の開放

情報公開

要望・意見・問合せ

市立図書館

保育施設利用申込

乳幼児

簡単便利な行政サービス

市LINE公式アカウント

登録者数：36,686名 (3/9現在)

市LINE公式アカウントを活用した各種サービスを提供。

◎情報配信サービス

新型コロナ情報などの市政情報を迅速に配信します。

◎市民通報システム

道路や公園等の不具合を写真付きで通報できます。

◎イベント予約システム

相談・講座・イベント等を簡単に予約できます。

主な予約可能なイベント等

・本日の発表会

申込者180名のうち、約半数が予約システムで申込み！

- ・学習センター主催の市民講座申込み
- ・農地に関する窓口相談予約



ネットでの集会所予約 について

野田町町会連絡協議会

会長（野田町東町会長）
小林 富次

協議会の概要

- 【 名称 】 野田町町会連絡協議会
- 【 設立 】 R3年12月7日
地縁団体認可
- 【 組織 】 5町会の連合会
 - ・ 野田町 東町会
 - ・ 野田町 西部町会
 - ・ 野田町 南町会
 - ・ 野田町 北部町会
 - ・ 野田町 中央町会

▼R5年1月15日に完成した新野田町集会所



取組の概要

新集会所の開所に併せて、

集会所の利用予約をインターネットで行うことができる無料予約システムを構築

※野田町集会所建設委員会内の

「備品、什器等調達及び管理運営方式作成、広報班」がシステム構築を担当

きっかけ

県道庭坂福島線拡張による旧集会所移転以前に永く従事した商店主の管理人が辞めた後の管理人が、予約電話受付・利用料受領・鍵受領・利用後点検のための拘束時間の長さに1年しか務まらず、対応に迫られていた。



要望「ネットで集会所の利用予約をしたい」

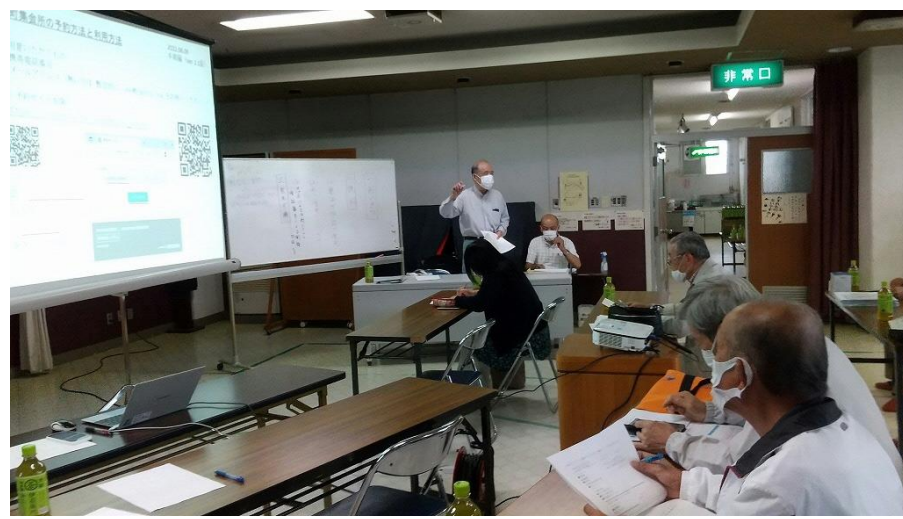
ネット予約システム
導入検討スタート

- ・ ネット予約システムは、利便性・簡易性・経済性を考慮し選択。
 - ・ 広報班の福大教授班員が無料予約システムRESERVA（レゼルバ）を仮公開
- ⇒利用者対象に意見交換会を行った後、本公開し、利用説明会を実施

【意見交換会】 R4年6月12日、19日に2回開催

【利用説明会】 R4年10月9日に午前と午後の2回開催

▼R4年6月12日の意見交換会の様子▼



○ 工夫した点

- ・ 利用料のクーポン券（右図）を販売。
クーポン券偽造防止対策として、1枚毎に通し番号を付け、購入者毎に所持分・使用分の記録を付け管理できるようにした。



○ 苦労した点

- ・ 領収書の発行を対面や郵送を避けたかったので、料金箱に受領者明記捺印複写領収証を利用者に作成もらい、切り取って持ち帰る方式にした。

◎システム導入の効果

- ・ 予約・集金・施錠開錠・点検業務を利用者にも分担してもらうシステムとしたので、共有意識が育ち丁寧に利用して貰えると期待している。

ご清聴ありがとうございました

LINEを活用した 町内会活動について

松川地区 石合町内会

事務局長
石津 一明

LINEを活用した町内会活動について 1

松川地区 石合町内会

町会の概要

- 世帯数 < **389戸** >
- 人数 < **1,113名** >
- 65歳以上 < **40.4%** >
- 65歳以上一人暮らし
31世帯 < **8%** >

松川町の紹介

松川町は自然豊かな 花の名所



4月 右輪台山のしだれ桜



5月 クマガイソウ里まつり

6月 土合館公園
あじさいまつり



10月 松川町提灯まつり



きっかけ

R2年11月17日
モデル事業に応募

参加する メリットは！

- ・市/松川町/各上部団体から通知書 町内会長宅へ郵送
 - ・町内会長宅着後 ⇒ 事務局コピー配布
- < 隣組長へ配布(6日～7日後)になっている >

電子メール

< 隣組長 & 会員へ情報提供 大幅短縮される >

電子町内会モデル事業

市と一緒に

募集

にチャレンジしてみませんか？



電子町内会モデル事業って!?

市ではICTを活用し、スピーディな情報伝達を目的とした検証事業に協力いただける町内会を募集します。各町内会へ市からのお知らせなどを電子メールでお送りし、各町会長から会員の方への回覧などについてもICTを活用するなどの取り組みを行っていただき、課題やその解決策について市と一緒に検討いただきます。

<令和3年度> 電子町内会取り組み

福島市からチャレンジ！

回覧 通知等 LINEで情報を共有化する

困ったこと

- ・会員が多すぎて 全員には出来ない！
- ・スマートフォン持っていない人どうするの！

<令和4年度> 石合町内会役員への取り組み

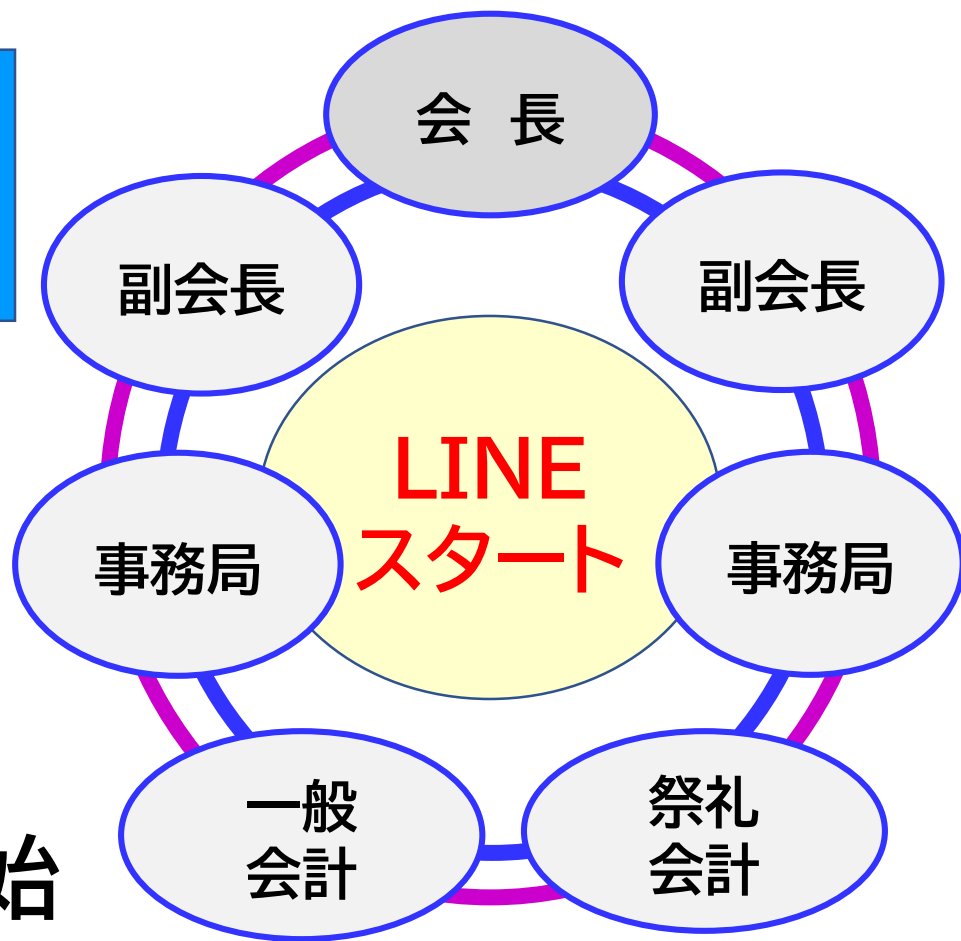
まずは 役員間で
<LINEトライ>

R4年 7月7日

ICTアドバイザー講師



LINEグループ運用開始



<令和4年度> 石合町内会全体取り組み

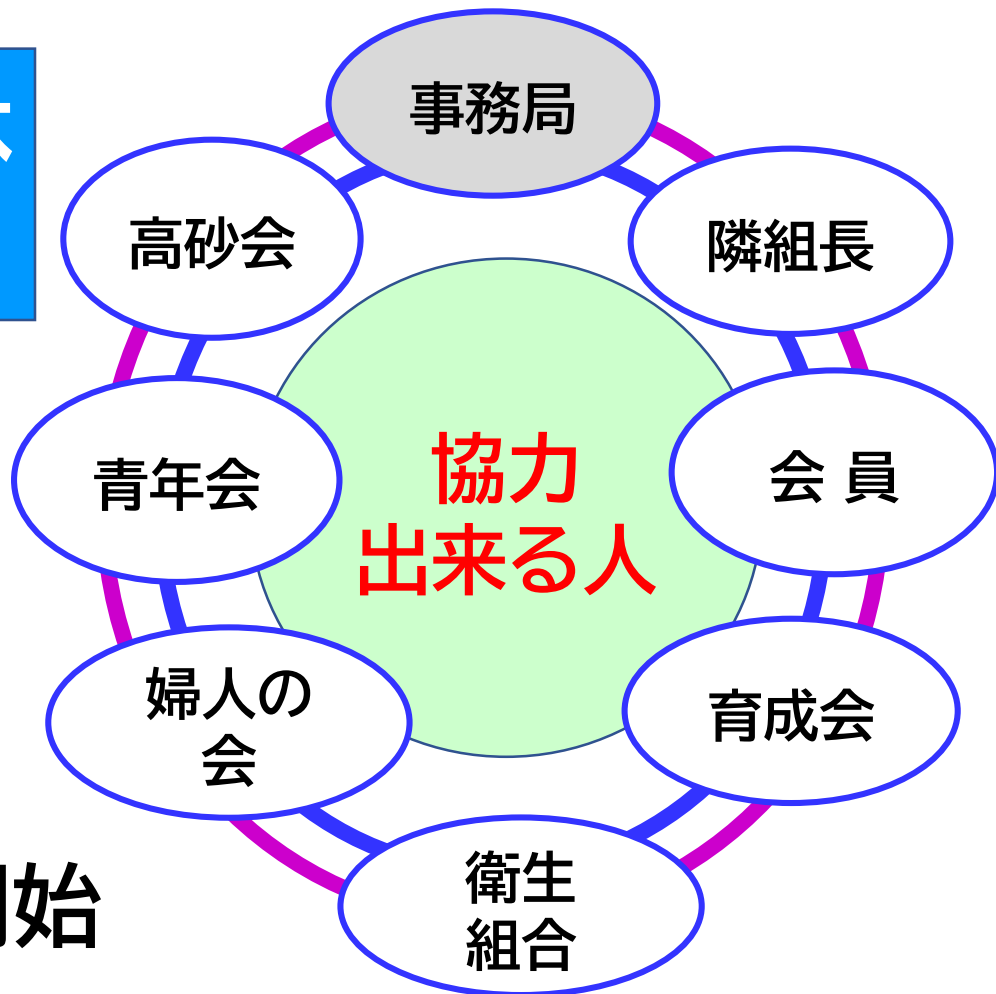
まずは 町内会全体
<LINEトライ>

令和4年11月24日

協力出来る人達で



LINEグループ運用開始



石合町内会 LINEグループ <効果>

- ・ 事務局から『情報を即配信』できた
- ・ 会員に迅速に『情報を共有』できた

体制が整うまで 『回覧版』は継続

<令和4年度> 石合町内会取り組み

福島市からチャレンジ！
各町内会でホームページ立ち上げる

1. R4年10月18日 トップページ案作成依頼
2. R4年12月 5日 市ホームページ公開

R5年1月から <部分的運用を開始した>

LINEを活用した町内会活動について 7

LINEグループ と ホームページ運用説明会

石合集会所
令和 5年1月29日(日)
町内会各団体説明会実施

松川支所
令和 5年2月4日(土)
運営委員会説明会実施



<令和5年度の取り組み>

1. 石合町内会 LINEグループ拡大

協力出来る人から加入活動の継続

2. 町内会情報 ホームページ 公開

各団体参加によるホームページ運用

安心して暮らせる地域づくりをめざして

ご清聴ありがとうございました

ウェブサイトを活用した 町内会活動について

渡利地区 希望ヶ丘町会

会長
岸波 清孝

町会の概要

- 【名称】 希望ヶ丘町会
- 【設立】 S.59年
※H.20年法人化
- 【世帯数】 30世帯
世帯主の7割以上が
65歳以上

- ・ 渡利地区南部に位置し、南向台に隣接した自然豊かな環境の町会です。
- ・ 環境衛生・町内美化・親睦を深める春のお花見、秋には芋煮会、町会所有地での“DASH”菜園など会員同士の交流には特に力を入れています。

取組の概要

- ・ 町会活動・各種行事の情報発信
- ・ 町会活動の記録



電子町内会ウェブサイトの活用



▲電子町内会のウェブサイト画面

きっかけ

町会の古い資料を整理 → 重要資料の継承は、**デジタル化**しかない。

効果

デジタル化

町内会活動が、**時間と場所を選ばず、すぐ確認できる！**

※タイムリーな情報発信は、**LINE**を活用。
ウェブサイトは恒久的なデータの保管場所として。

今後の予定

- 町会設立からこれからの活動記録をデジタルで保存したい。
- 震災の実体験を風化させずにウェブサイトに残すことによって次世代へ伝承したい。



希望ヶ丘町会のウェブサイト掲載情報

町内会からのお知らせ

2023年2月1日 融雪剤を設置しました。

融雪剤を設置しました。

📅 2023年2月1日

ゴミ集積所の中に融雪剤を設置しました。

集積所前が凍結した際にお使いください。

補充が必要な場合は総務の方へご連絡ください。



町内会の活動報告

2022年12月11日
花いっぱい運動を実施

花壇整理を実施

📅 2022年12月11日

12月11日(日)7時より花いっぱい運動を実施。



○ 工夫した点

ウェブサイト更新は、パソコンでなければ更新できない状況。

⇒入力する文字は必要最小限に、写真等の画像を掲載し、分かりやすさを追及。

◎今後はスマホで更新できる「町会公式フェイスブック」を開設して、その投稿を2次利用することで、更新のスピード化につなげたい。

○ 苦労した点

マニュアルだけで、ウェブサイトの更新することは難しい。

⇒会員の情報弱者のフォローを、今まで以上に組みこんでいきたい。

ご清聴ありがとうございました

地域デジタルクラブ の活動について

吉井田 I C T サポートクラブ

会長
齋藤 敏則

【クラブ名】 吉井田 I C Tサポートクラブ
【設 立】 R 4年 5月
【会 員 数】 1 6名 (女性 9名 男性 7名)
(年齢 6 4 歳 ~ 7 8 歳)
※ 2名は、シニア I C Tサポーターとして
活躍中
【活 動 日】 毎月第 3 日 曜 日
【活 動 場 所】 吉井田学 習 センター



▲クラブ立上げのメンバー

クラブを設立したきっかけ

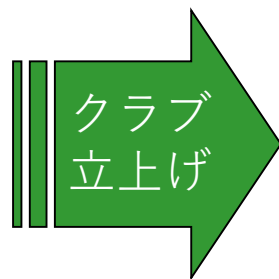
スマホ教室参加



参加者多数



スマホで悩んでいる



吉井田 I C Tサポートクラブ

「デジタルを取り入れながら地区を盛り上げていきたい」との
思いでクラブを設立

毎月、デジタル講習会を実施

● 講習会の実施状況

- R4年5月～：スマホの使い方など、会員の疑問をひとつずつ解決
- R4年8月～：疑問点明確化のため、グループミーティング形式で実施
- ：
- R5年2月：LINEで相手に位置情報を教える方法

◎R5年度は復習の年として、これまでの講義内容を紙資料で作成し、学び直しを行う予定

● 工夫していること

- ・会員が抱える疑問や分からないこと、チャレンジしたいことをリスト化。
- ・グループミーティングを実施しながら、身に着けた知識や技能は、会員同士で共有し、学び合いながら交流。

▼講習会の様子



注目 講習会は、会員手作りの資料を使って、楽しく！面白く！

【講習会資料】LINEで相手に位置情報を教える方法

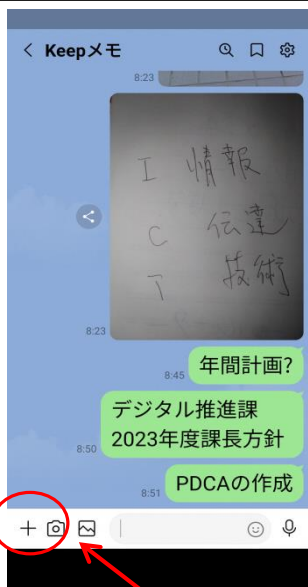
★出先で自転車の故障・車の故障・体調不良の時に使用する！

★スマホの位置情報がONになっていること！

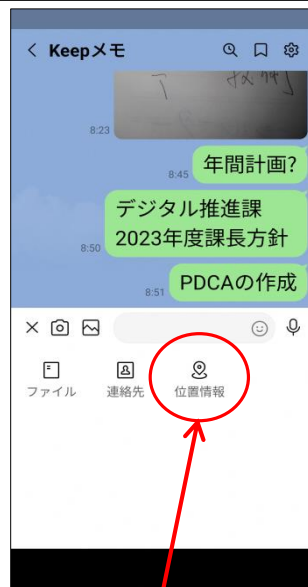
手順 LINEアプリタッチ⇒トーク⇒相手を選択⇒+タッチ⇒位置情報タッチ⇒送信タッチ⇒位置情報表示



送る相手を選択



「+」をタッチ



「位置情報」をタッチ



「送信」をタッチ



相手に位置情報表示

クラブのモットー（3 motto）

デジタルを
もっと
楽しく

デジタルを
もっと
気軽に

デジタルを
もっと
地域に

人生が明るく ワクワク レベルアップ！

ご清聴ありがとうございました

シルバー人材センター 「ICT班」の活動について

公益社団法人
福島市シルバー人材センター

常務理事兼事務局長
千葉 修

シルバー人材センター「ICT班」の 活動について

1

福島市シルバー人材センター

シルバー人材センターとは

高齢者が働くことを通じて仲間づくりや健康の維持・社会参加をし、高齢者の生きがいの充実と家庭や地域に活力ある、元気な地域社会づくりに寄与する団体。

【会員数】 1,083名
 男性749名
 女性334名

【平均年齢】 73.8歳

【会員要件】 市内居住の60歳
以上の健康で働く
意欲のある方

【名称】 公益社団法人福島市シルバー人材センター「ICT班」

【設立】 R4年4月

【会員数】 14名（男性10名 女性4名）

【活動目標】

- ① ICT講座を実施し、会員の生活向上を目指す。
- ② スキルを習得し、ICT関連業務の受注を目指す。

「ICT班」立ち上げのきっかけ

- ・ 木幡市長から「ICTスキルの向上を考えてほしい」とのお話を頂く。
 - ・ 会員への情報発信にショートメールの活用を始めた矢先
- ⇒ 職能班として「ICT班」を立ち上げ、本格的に取り組みを始める。

シルバー人材センター「ICT班」 の活動について

2

ポイント

ICT習熟度に差があるため、具体的な目標を設定し取り組む

目標

会員の人生の充実を図る手段として、ICTスキルの向上を目指す

取組

- ・LINE・メール等の活用方法を学習する講座を6回開催
- ・地区総会の中でICT班が講師となり、スマートフォンの魅力についての研修を実施 **新たな試み**



▲スマートフォン利活用支援講座



▲地区総会 会員研修の様子

◎ ICT班が作成した地区総会研修資料（抜粋）

令和4年度 地区総会
会員研修資料

「スマートフォンこそ
シニアの味方！」



福島市シルバー人材センター
ICT班

スマートフォンの便利機能

① 写真・動画撮影が可能

スマートフォンのメーカーは、写真・動画の綺麗さに非常に力を入れており、画質が飛躍的に向上しています。皆様の思い出を残すのに最適です。



② メールによる手軽なコミュニケーション

電話だと相手の状況を考慮しながらですが、メールだと気軽に送信できます。



機種によっては、話した言葉を文字に起こしてくれる音声入力もあります。

また、絵文字やスタンプを活用して、親近感を図り、自分の気持ちを伝える方法もあります。

③ ニュースが、迅速に提供

全国のニュースも地域のニュースも気軽に情報収集できます。

特に災害時の警報なども迅速に提供されるので、自分の身を守るツールでもあります。



シルバー人材センター「ICT班」 の活動について

目標 ICTに関連した就業に対応するためのパソコン研修の充実

取組 ポリテクセンター福島と連携し、
パソコン教室を2回開催

【1回目】 「表計算ソフトを活用した業務改善」

【2回目】 「表計算ソフトの関数活用」



▲パソコン教室の様子

効果

シルバー会員のICTスキルの向上と
ICT班員の就業につなげる研修を
実施することが出来た。



人がつながる。知識ひろがる。

ご清聴ありがとうございました